

I. 事業の基礎情報

事業名		みんなでまちづくり事業		担当部・グループ名	企画部 総合政策グループ						
総合計画（基本計画）体系	個別目標	(1)まちへの思いを育み、いつまでも住み続けたいと思えるまちをつくります									
	こんなことに取り組みます	市民・地域・行政が得意分野を活かし、それぞれのステージで自分たちのできる“まちづくり”に取り組んでいくための環境づくりを進めます。									
	みんなで目指すまちづくり指標名	地域活動に参加したことがある人の割合									
	総合戦略	<input checked="" type="checkbox"/> 該当する <input type="checkbox"/> 該当しない			予算事業名	市民予算枠事業、みんなでまちづくり事業					
	策定時の値	63	実績値	-	実績値	-	実績値	-	目標値	70	(単位)
	2017		2018		2019		2020		2021		%

II. 目指す姿

このアクションプランによって実現したい目指すべき市の姿	☆自分たちの住むまちのことを「自分ごと」として考え、まちを大切に、まちの課題に対し、自分たちができることは自分たちで課題を解決している。 ☆さまざまな世代・性別・分野の市民が、新たにまちづくりに参加したくなる、参加しやすい風土を育んでできる。
-----------------------------	--

III. 課題

目指す姿実現に向けた課題	①若い世代(10代～30代)の市民が地域活動に参加しやすくなる仕組みを構築する必要がある。 ②高校・大学・就職など高浜市から離れることが多くなる若い世代や定年退職を迎え地域に戻ってくる世代が地域デビューできるきっかけづくりに取り組む必要がある。 ③職員の地域活動に対する意識を、ワークライフバランスを踏まえつつ高めていく必要がある。 ④2022年度(平成34年度)よりスタートする「第7次高浜市総合計画」を、市民と対話のキャッチボールを重ねながら策定する必要がある。 ⑤新たな地域計画策定と、まちづくり協議会の行政からの自立を含めた今後の在り方について検討し、さらなる地域内分権の推進をめざす必要がある。
--------------	--

【PLAN】

IV. 目指す姿の実現に向けた4年間の工程表・事業概要

事業年度	2018(平成30年度)	2019(平成31年度)	2020(平成32年度)	2021(平成33年度)		
事業計画	自治基本条例	内部検証	内部報告書完成	組織立ち上げ	条例の検証・見直し	☆報告書公表
	「のびゆく高浜」に副読本の要素を盛り込むよう協議	「のびゆく高浜」への副読本の要素の掲載(学校教育の中で自然にまちづくりについて学べるように)				
	希望校への出前授業の実施	希望校への出前授業の実施	希望校への出前授業の実施	希望校への出前授業の実施	希望校への出前授業の実施	
	きっかけづくり	募集PR(随時)				
	若者向けの検討	企画実施	検証改善	企画実施	検証改善	
	定年者向けの検討	企画実施	検証改善	企画実施	検証改善	
	まちづくり活動への参加促進	市民予算枠事業交付金の運用				
	まちづくりへの活動支援	検証・改善	検証・改善	検証・改善	検証・改善	
		地域カルテのオープンデータ化・公表・更新				
		まち協特派員(第5期)	まち協特派員(第6期)	まち協特派員(第7期)	まち協特派員(第8期)	
	総合計画策定	第7次総合計画を市民との対話を重ねながら策定			策定	
事業費総額(千円)	(当初) 42,074	(見込) 44,254	(見込) 43,148	(見込) 40,634		
財源内訳	一般財源	552	1,662	1,789	552	
	特定財源	41,522	42,592	41,359	40,082	
特記事項						

【DO】

Ⅲと対応する課題	V. 上半期の進捗状況 目標達成のために掲げた「課題解決に向けた取り組み」とその進捗状況
①②	◆「のびゆく高浜」にまちづくり副読本(自治基本条例)の要素を盛り込めるよう協議する。 ◆若者向け・定年世代向け地域デビューの仕組みを構築し、募集・実施する。
状況	7月4日に開催された「のびゆく高浜編成委員会」に出席し、趣旨説明を行った。 若者をターゲットにしたざっくばらんなカフェVol.56(8月1日)を開催した。
③	◆まち協特派員の第5期生を募集し、各まち協へ派遣する。
状況	第5期生5名を新たに任命し、各まち協に新たに1名ずつ派遣した。
④	◆中期基本計画の進行管理を行う中で、総合計画の策定に携わっていただけそうな市民を発掘・開拓する。
状況	たかはま未来カフェを9月29日に開催し、市民42名が参加し、10年先の高浜市の理想の姿と、それを実現する方法を話し合った。
⑤	◆まちづくり協議会による地域内分権をさらに推進していくため、今後の在り方について検討し、行政からの自立を支援する。
状況	まち協サミット(7月24日)にて、今後の予算の策定方法について協議を行った。 下半期にまちづくり協議会と行政と協力して予算運営および実施事業の見直しを行っていく。

【CHECK】



Ⅲと対応する課題	VI. 上半期の取り組みから見えてきた課題 目指す姿実現に向け、これまでの取り組みから見えてきた課題
①②	・「のびゆく高浜」の限られたページのなかに、「高浜市自治基本条例」をわかりやすく組み入れるために、引き続き編成委員会と協議・調整が必要となる。 ・広く募集をかけるだけでは、若い世代が集まらないので、中心となるコアメンバーを集め、そこから活動を広げていくような働きかけが必要となる。また定年世代が地域と関わるための機会を創出していく必要がある。
③	特派員の地域との関わり方や特派員の位置づけなど、これからの特派員の在り方を、地域が特派員に求める意見を聞きながら検討していく必要がある。
④	行政からのみの声がけだと、毎回同じ顔ぶれになってしまうため、活動に参加している市民から声がけいただくなど、アプローチの仕方を工夫する必要がある。
⑤	一方的に行政側の考えを押し付けずに、まちづくり協議会と慎重に意見交換を重ねていく必要がある。

【ACTION】



Ⅲと対応する課題	VII. 課題解決を踏まえた今後の具体的なアクション(案) いつ・何を・どのように・どうする	
①②	平成30年度下半期～	「のびゆく高浜」にまちづくり副読本(自治基本条例)の要素を盛り込めるよう協議する。
	平成32年度～	子ども達が学校教育の中で自治基本条例に込めた想いを当たり前で学ぶことができるようにする。
	平成30年度下半期	ざっくばらんなカフェに参加した若者や、高浜市に関心のある若者等に直接声かけを行い、その若者たちを中心メンバーとして、若者たちによる活動組織「若者会議(案)」を発足する。
	平成31年度	「若者会議(案)」の活動をより周知し、より多くの若者が活動に関わるように働きかけを行う。また、定年世代が地域活動に関わるきっかけづくりを行う。
	平成32～33年度	「若者会議(案)」の活動が自立化していくための支援を行う。 また、定年世代がまちづくり協議会等の地域団体の活動に参加できるよう支援する。
③	平成30年度下半期	これからの特派員制度について、地域と行政で協議する。
	平成31年度	まち協特派員の第6期生(平成31年度)、第7期生(平成32年度)を募集し、各まち協へ派遣する。
④	平成30年度下半期	中期基本計画の進行管理を行う中で、総合計画の策定に携わっていただけそうな市民を発掘・開拓する。
	平成31～32年度	市民との対話を重ねながら「第7次高浜市総合計画」策定の準備をする。
	平成33年度	市民との対話を重ねながら「第7次高浜市総合計画」の策定をする。
⑤	平成30年度下半期	まちづくり協議会と行政と協力して予算運営および実施事業の見直しを行っていく。
	平成31年度	まちづくり協議会と行政と協力して予算運営および実施事業の見直しを行う。
	平成32～33年度	まちづくり協議会の行政からの自立をめざし、自主財源の確保方法を検討する。
平成31年度 事業費予算	44,254千円	